

「モノ認識」と「モバイル」を中心に IoTで世界を変える

IoT × **AsReader**®  Digital Transformation

第17回定時株主総会

株式会社 アスタリスク

証券コード：6522

2023年11月27日



監査報告書

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書

独立監査人の監査報告書		2023年10月27日
株式会社アスタリスク 取締役会 御中		
PwC京都監査法人 京都事務所 指定社員 公認会計士 田口真樹 業務執行社員 指定社員 公認会計士 山下大輔 業務執行社員		
<p>監査意見</p> <p>当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社アスタリスクの2022年9月1日から2023年8月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。</p> <p>当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アスタリスク及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。</p> <p>監査意見の根拠</p> <p>当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。</p> <p>その他の記載内容</p> <p>当監査法人は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。</p> <p>当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。</p> <p>連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を適読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤り/兆候があるかどうか注意を払うことにある。</p> <p>当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。</p> <p>その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。</p> <p>連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任</p> <p>経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。</p> <p>連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。</p> <p>監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。</p> <p>連結計算書類の監査における監査人の責任</p> <p>監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。</p> <p>監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の有効性及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。 ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。 ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。 ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑念を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。 ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。 ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関する責任を負う。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。 <p>監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。</p> <p>監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えたと合理的に考えられる事項、及び回避要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。</p> <p>利害関係 会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

会計監査人の監査報告書

独立監査人の監査報告書		2023年10月27日
株式会社アスタリスク 取締役会 御中		
PwC京都監査法人 京都事務所 指定社員 公認会計士 田口真樹 業務執行社員 指定社員 公認会計士 山下大輔 業務執行社員		
<p>監査意見</p> <p>当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社アスタリスクの2022年9月1日から2023年8月31日までの第17期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。</p> <p>当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。</p> <p>監査意見の根拠</p> <p>当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。</p> <p>その他の記載内容</p> <p>当監査法人は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。</p> <p>当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。</p> <p>計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を適読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤り/兆候があるかどうか注意を払うことにある。</p> <p>当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。</p> <p>その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。</p> <p>計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任</p> <p>経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。</p> <p>計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。</p> <p>監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。</p> <p>計算書類等の監査における監査人の責任</p> <p>監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えたと合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。</p> <p>監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の有効性及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。 ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。 ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。 ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑念を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。 ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。 ・ 監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。 ・ 監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えたと合理的に考えられる事項、及び回避要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。 <p>利害関係 会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士の規定により記載すべき利害関係はない。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

監査等委員会の監査報告書

第17期 監査等委員会監査報告書	
<p>当監査等委員会は、2022年9月1日から2023年8月31日までの第17期事業年度の取締役の職務の執行の監査を行いました。その方法及び結果について、以下の通り報告いたします。</p>	
<p>1. 監査の方法及びその内容</p> <p>監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号口及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制(内部統制システム)について取締役及び使用者等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。</p>	
<p>1. 監査等委員会が定めた監査基準に従い、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用者からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な裁決書類等を閲覧し、本社、研究所兼大阪事業所、AsReader Baseおよび東京事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。また、取締役の職務の執行が法令、定款に適合することを確保するための体制その他株式会社業務の適正を確保するために必要なものとして会社法第399条の13第1項第1号口及びハに定められた事項に関する取締役会の決議並びに整備、運用状況について、取締役及び使用者等から定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明しました。子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。</p>	
<p>2. 会計監査人が独立した立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われていることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)第13条で整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。</p>	
<p>以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及び、その附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。</p>	
<p>2. 監査の結果</p> <p>1. 事業報告等及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。</p> <p>2) 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実も認められませんでした。</p> <p>3) 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役会の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められませんでした。</p>	
<p>2. 計算書類及びその附属明細書の監査結果</p> <p>会計監査人PwC京都監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。</p>	
<p>3. 連結計算書類の監査結果</p> <p>会計監査人PwC京都監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。</p>	
<p>2023年10月27日</p>	
<p style="text-align: center;">株式会社アスタリスク監査等委員会</p> <p style="text-align: right;">常勤取締役監査等委員 石田 泰 一 ㊞ 取締役監査等委員 岩崎 文 夫 ㊞ 取締役監査等委員 山 元 教 ㊞</p>	
<p>(注) 監査等委員岩崎文夫、監査等委員山元教有は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に定める社外取締役であります。</p>	

「モノ認識」と「モバイル」を中心に IoTで世界を変える

IoT × **AsReader**  Digital Transformation

第17回定時株主総会 事業報告資料

株式会社 アスタリスク

証券コード：6522

2023年11月27日



1. 第17期 事業の概況

- (1) 連結業績
- (2) セグメント別業績
- (3) 地域別業績
- (4) 個別業績
- (5) その他

2. 企業集団が対処すべき課題



1. 第17期 事業の概況



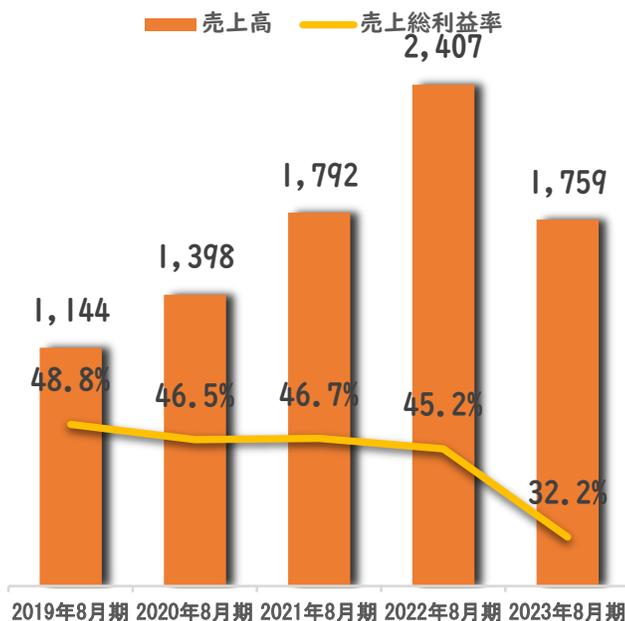
(1) 連結業績



【連結財務ハイライト】

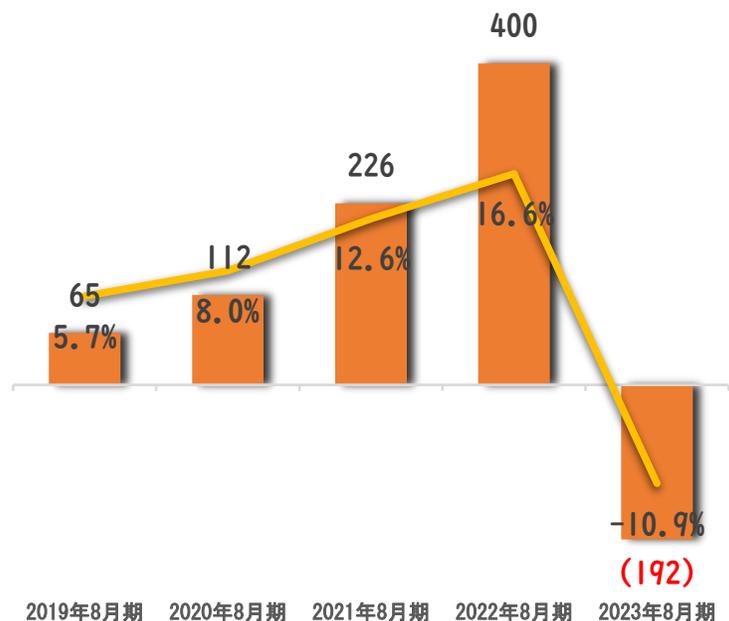
■ 売上高・売上総利益率

(単位：百万円)



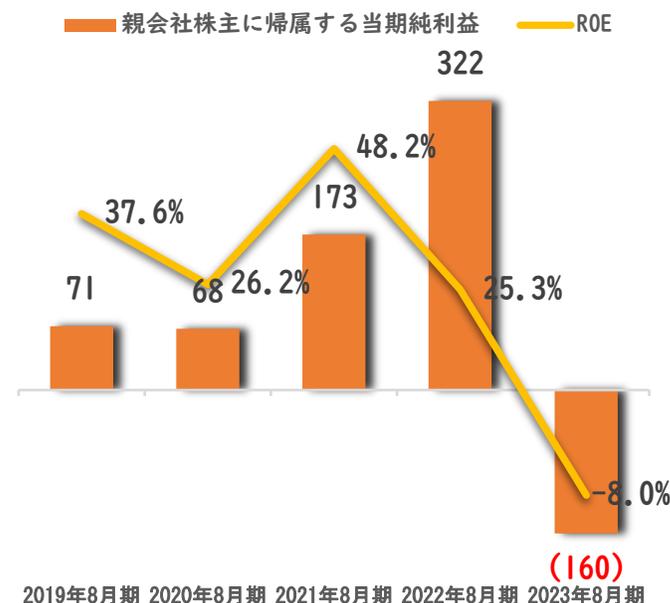
■ 営業利益・営業利益率

営業利益 営業利益率 (単位：百万円)



■ 親会社株主に帰属する利益・ROE

(単位：百万円)

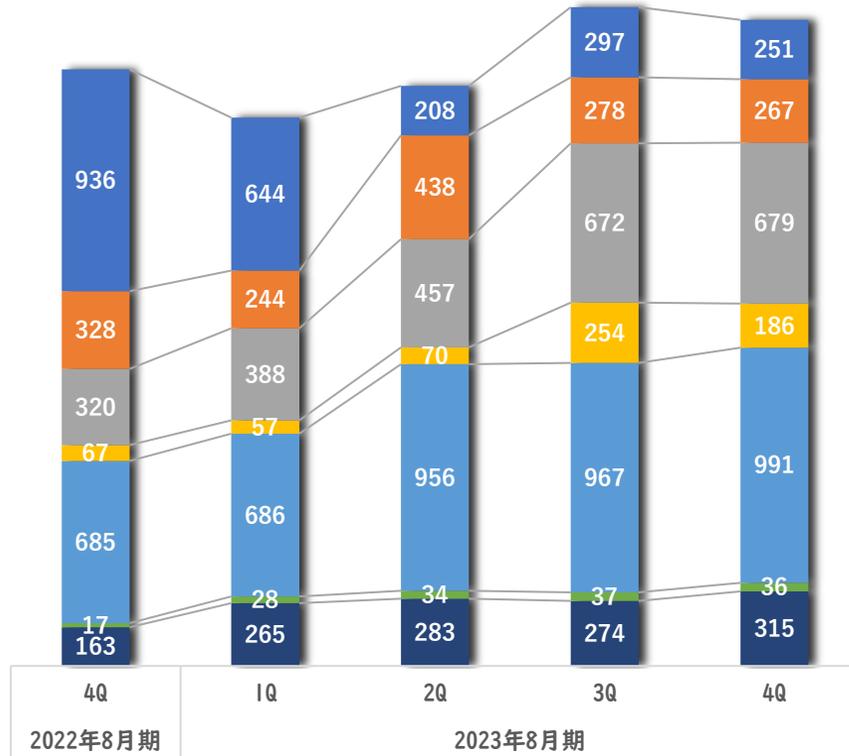


- 前期比 売上高 26.9%の減収 営業利益▲192百万円（前期は400百万円）
- 売上総利益率は売上総利益率の高い特需案件が前期にあったこと、半導体等の部材価格高騰と為替相場（円安）の影響等で▲13.0%
- 営業利益率は▲10.9%と前期16.6%から27.5%の悪化。

【連結貸借対照表】

①資産

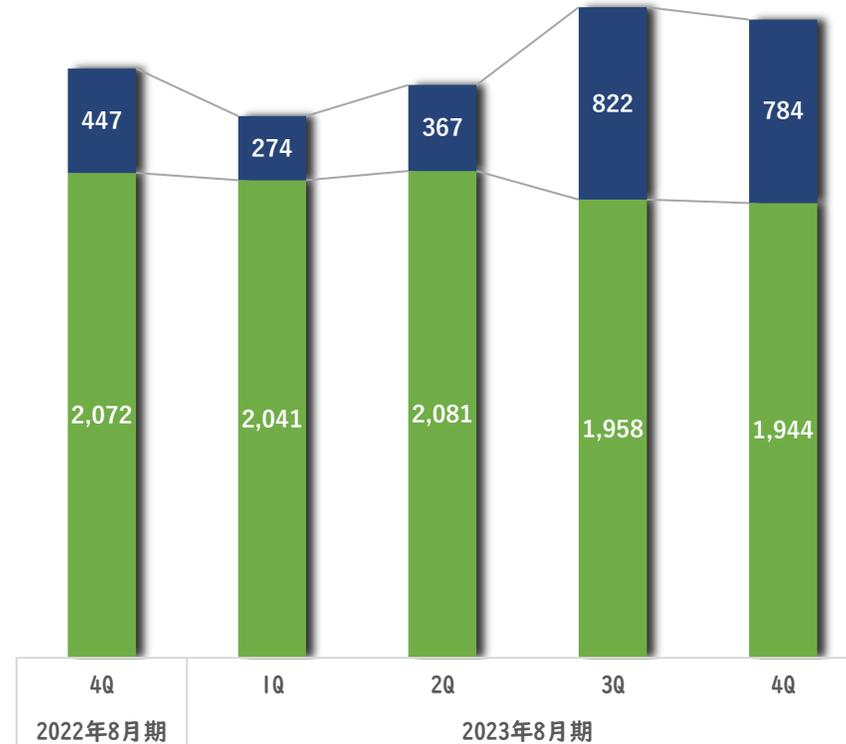
(百万円)



■ 投資その他の資産 ■ 無形固定資産 ■ 有形固定資産
 ■ その他流動資産 ■ 棚卸資産 ■ 売上債権及び契約資産
 ■ 現金及び預金

②負債及び純資産

(百万円)



■ 純資産 ■ 負債

【前期比較情報】

【資産関係】

- 2,719百万円 (199百万円増加)
- ①棚卸資産 369百万円増加
 - ②有形固定資産 306百万円増加
 - ③投資有価証券 101百万円増加
 - ④現金及び預金 684百万円減少

【負債関係】

- 784百万円 (337百万円増加)
- ・短期借入金 460百万円増加

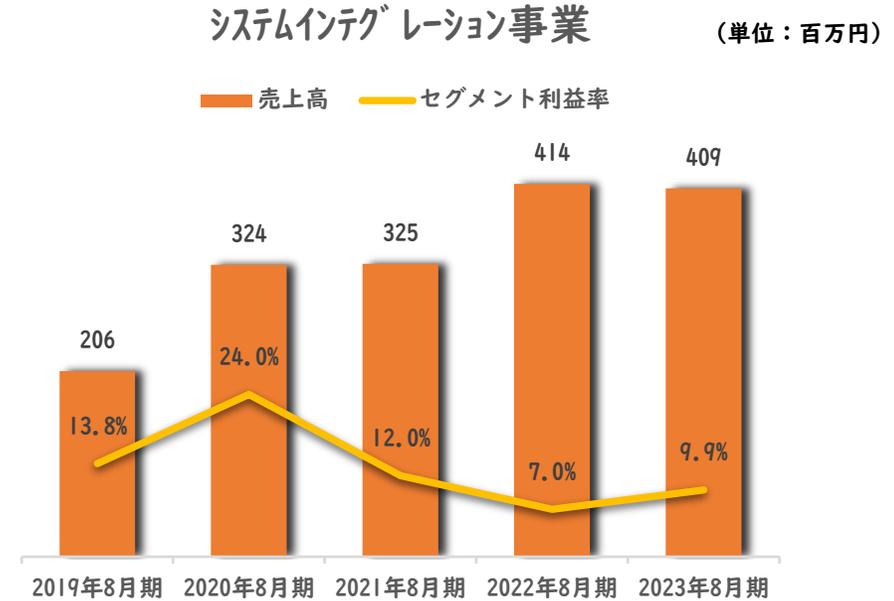
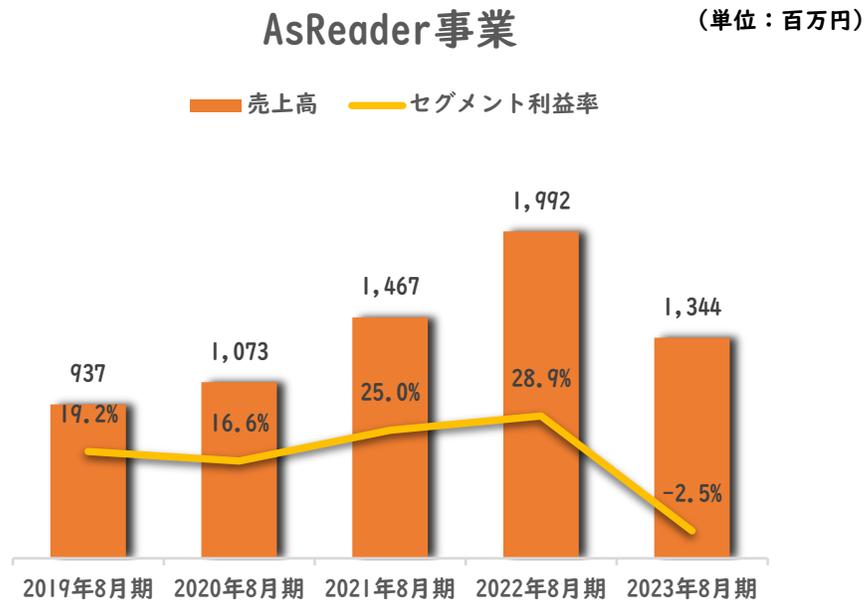
【純資産関係】

- 1,934百万円 (137百万円減少)
- ①当期純損失 170百万円減少
 - ②従業員の新株予約権権利行使 31百万円増加

(2) セグメント別業績



【セグメント別業績】



■AsReader事業

2022年8月期は海外大手飲料メーカー向けの大型納品やRFID関連の特需案件がありました。これらの案件に相当する案件の獲得に向け2023年8月期も営業活動を行っていましたが、同規模の納品や特需が受注しきれなかったこともあり、売上高が減少する結果となりました。

■システムインテグレーション事業

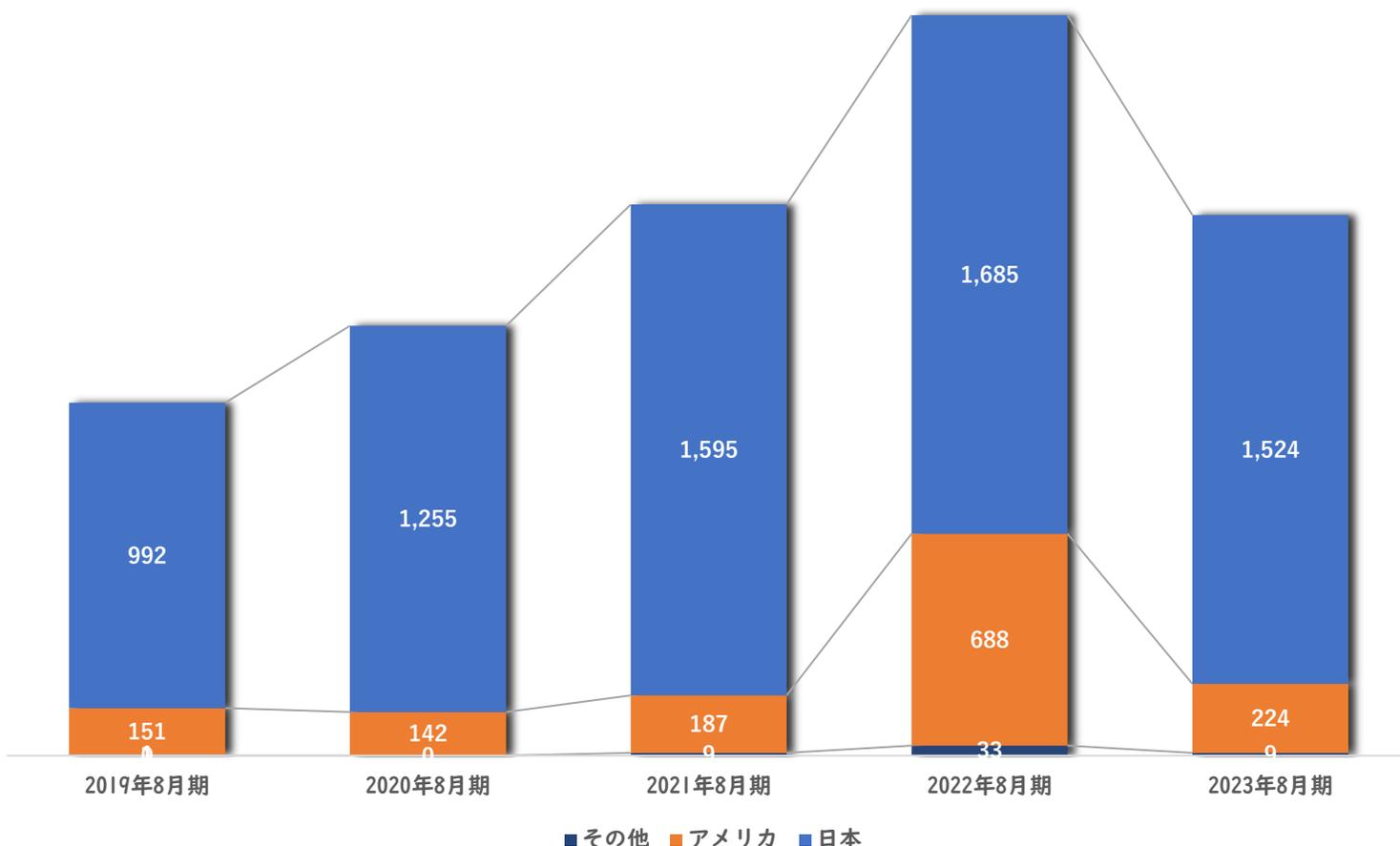
2023年8月期は売上高は減収となったものの、不採算案件の発生抑制によりセグメント利益は増加、利益率も改善する結果となりました。

(3) 地域別業績



【地域別売上高】

(単位：百万円)



■日本

企業の設備投資の控えなどにより、また2023年8月期に計上したRFID関連の特需案件のような大型案件の獲得が叶わず、前年同期比▲9.5%の減少となりました。

■アメリカ

前期（2022年8月期）は海外大手飲料メーカー案件の大型納品がありましたが、当期（2023年8月期）も継続を見込んでおりましたが、それらの延期、また、その他の同規模の納品が受注しきれず、前年同期比▲67.3%となりました。

■その他

欧州、中国での販売になります。

(注) アメリカ、欧州、中国の売上は決算月のズレの影響で7月から翌年6月までの実績で連結財務諸表を作成しております。

(4) 個別業績



・ <https://www.asx.co.jp/ir/> に掲載しております
第17回定時株主総会招集ご通知 38頁から40頁をご参照ください。

貸借対照表

(2023年8月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	1,234,635	流動負債	672,757
現金及び預金	32,087	買掛金	84,547
売掛金及び契約資産	512,920	短期借入金	460,000
商品及び製品	620,607	未払金	37,226
原材料及び貯蔵品	33,332	未払費用	6,177
前渡金	27,089	未払法人税等	1,530
前払費用	3,029	預り金	2,058
未収還付法人税等	67,441	契約負債	30,563
その他	56,544	賞与引当金	39,853
貸倒引当金	△118,416	製品保証引当金	9,036
固定資産	1,315,493	受注損失引当金	1,765
有形固定資産	969,775	固定負債	1,643
建物	484,953	資産除去債務	1,643
建物減価償却累計額	△6,466		
建物附属設備	148,379	負債の部合計	674,400
建物附属設備減価償却累計額	△8,000		
構築物	18,101		
構築物減価償却累計額	△609		
車両運搬具	641		
車両運搬具減価償却累計額	△641		
工具器具備品	198,751		
工具器具備品減価償却累計額	△157,923		
土地	292,589		
無形固定資産	39,619	純資産の部	
ソフトウェア	14,958	株主資本	1,875,727
ソフトウェア仮勘定	24,661	資本金	804,937
投資その他の資産	306,097	資本剰余金	794,937
投資有価証券	205,250	資本準備金	794,937
出資	1	利益剰余金	275,852
関係会社株式	5,830	その他利益剰余金	275,852
長期前払費用	16,713	繰越利益剰余金	275,852
繰延税金資産	65,177	純資産の部合計	1,875,727
その他	13,479	負債及び純資産合計	2,550,128
貸倒引当金	△355		
資産の部合計	2,550,128		

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2022年9月1日から
2023年8月31日まで)

(単位：千円)

科目	金	額
売上高		1,668,740
期首商品棚卸高	265,327	
当期商品仕入高	1,014,734	
他勘定受入高	27,399	
当期製品製造原価	457,441	
合計	1,764,903	
他勘定振替高	12,201	
期末商品棚卸高	620,607	
売上総利益		1,132,093
販売費及び一般管理費		536,647
営業外損失		644,427
営業外収入		107,779
受取利息及び配当金	1,504	
雑収入	243	
為替差益	36,199	
営業外費用		37,946
支払利息	897	
貸倒引当金繰入	74,489	
貸倒損失	41,589	
経常損失		116,975
特別利益		186,808
補助金収入	1,901	
特別損失		1,901
固定資産除却損	66	
子会社株式評価損	0	
		66
税引前当期純損失		184,974
法人税・住民税及び事業税	5,261	
法人税等調整額	△22,312	
当期純損失		△17,051
		167,923

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2022年9月1日から
2023年8月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
	資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	789,412	779,412	779,412	443,776	443,776	2,012,601
当期変動額						
新株の発行	15,525	15,525	15,525			31,050
当期純損失			△167,923	△167,923		△167,923
当期変動額合計	15,525	15,525	15,525	△167,923	△167,923	△136,873
当期末残高	804,937	794,937	794,937	275,852	275,852	1,875,727

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(5) その他の事項

【株価推移】



・当期（2022年9月1日～2023年8月31日）の株価推移を掲載しております。

・期間中の最高株価と最低株価は次のとおりです。
 最高株価 1,585円
 最低株価 777円

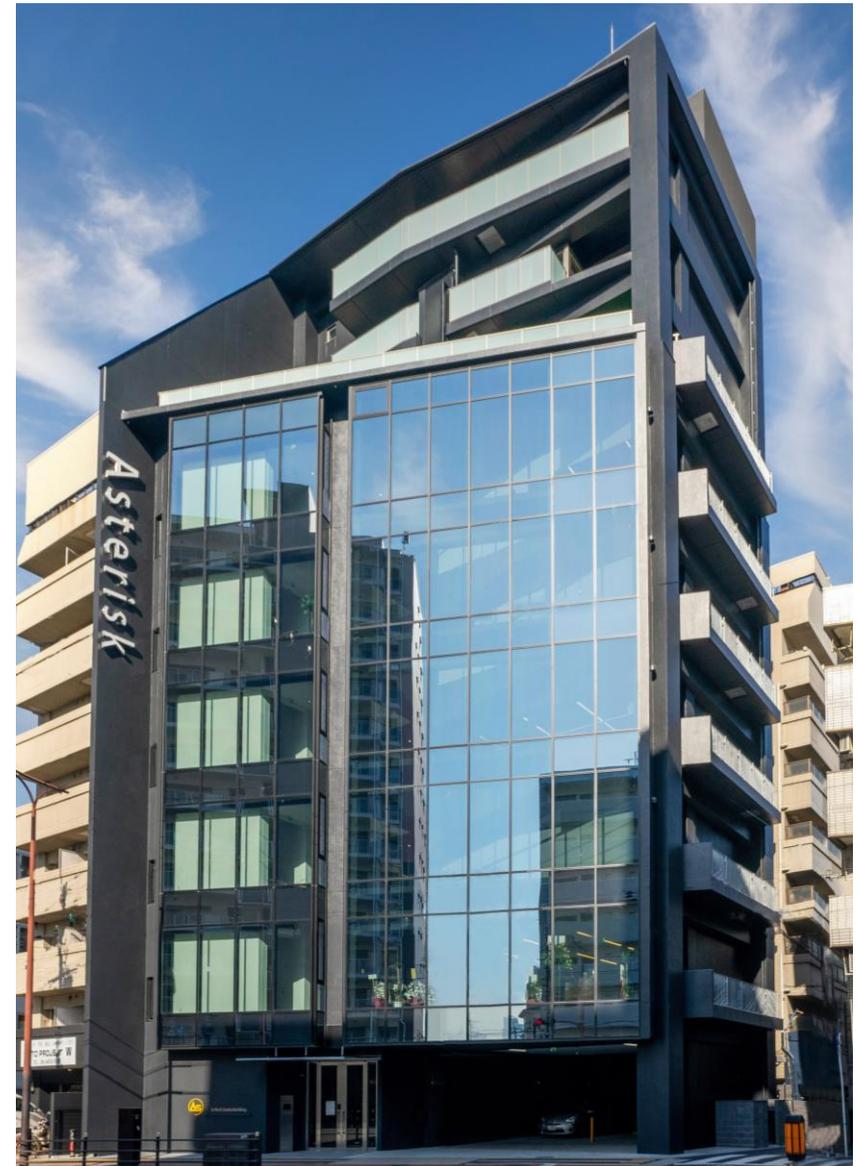
・更なるチャレンジを実施、長期にわたった業績を意識した経営を行い、市場から適正な評価をいただけるように活動を実施してまいります。

【研究開発施設の竣工】

2023年1月14日に引き渡しを受け、2023年2月4日から営業を開始しております。

新社屋は、働きやすい環境をコンセプトに、社員同士がコミュニケーションをとりやすい環境や、吹き抜けを通じた開放的な間取りを採用し、業務効率の向上を図るとともに、研究開発の拠点としてアイデアを進化させられるように設計いたしました。現在は画像認識技術（人追跡技術）に関するテストや機械学習などを行い、新製品開発や製品品質の向上を図っております。

これからも、社員同士でアイデアを出し合いながら、技術、品質、サービスの向上を目指していきます。



【新製品進捗】 顔認証AsReader GoMA

株式会社ガーネット様 顔認証で鍵を開けるAsReader GoMAを導入

京都を中心とした収益不動産の開発とその管理・運用を行っているガーネット様。

「自分達が欲しい商品を創る」という理念のもと、居住者へ便利で快適な暮らしを提供したいという考えから、新しい技術を取り入れたIoTマンションやスマートホームなどの開発を進めておられます。

特にこだわりをもっておられるのが、入居者の方々に安心安全を提供する「マンションセキュリティ」と、使いやすさを追求した「利便性」。そのふたつをさらに高めるために、開発中物件のエントランス部、オートロックの解錠コントロールに、AsReader GoMAの導入を決定いただきました。



Asterisk Inc.

【参考】顔認証システム **AsReader One**

レジのスマホで
顔認証



例えば



玄関のスマホで
顔認証



本人認証率は99%以上で、
パスワード、音声などの
オプションと
組み合わせることで
特定率は事実上の100%に。



+

オプションサービス(予定)

パスワード認証	声紋認証	虹彩認証	指紋認証
			
単独でも、2つ以上の組み み合わせでも認証可能。	静脈認証	耳介認証	掌紋認証
			

【製品連携】 アスタリスクと京セラが連携！

AsReaderとDIGNO®をセットでご利用いただけるようになりました。
～DIGNO®を活用した高性能なハンディターミナルが誕生します～

京セラの「DIGNO® SX2」と「AsReader ASR-A24D」をセットにした「ASRA24D-SX2」をアスタリスクより販売いたします。専用のハンディターミナルに匹敵する、高性能なAndroid OS搭載のハンディターミナルとしてご利用いただけます。

これにより、様々な企業の業務効率化を実現し、業務DXに貢献します。

京セラ【DIGNO® SX2】



アスタリスク【AsReader ASR-A24D】



【ASRA24D-SX2】



【参考】スマートフォンが選ばれる理由

専用機が続々とスマートフォンに置き換えられています！



最新のスマホを業務利用できる。
CPUの性能が高く、カメラ性能も
良い為、業務での活用の幅は無限



CPUやメモリ等の性能が低いものが
多く、スマホとして使いにくい
業務利用での活用の幅が狭い

専用機であるハンディとは比較にな
らないほど流通量が多い為、
高スペック製品を安価に入手できる



少数生産のため**低スペックで高額**

毎年最新のスマホが発売されて
おり、セキュリティの観点でも
OSも常に最新に更新可能



スマホにより専用機の市場規模縮小
ハンディ事業を撤退している企業も

流通量が多いので、修理できる
販売店も多い
スマホと一括保守サービスも有



修理できる販売店が少ない
導入台数が少ないことが多く、
1台故障すると業務が止まる

【雑誌掲載】 2023年3月27日発売の宝島社発行 「図解でわかる！ 2030年の未来予想図」に掲載されました！

2023年3月27日発売の宝島社発行の「図解でわかる！ 2030年の未来予想図」に、RFID技術が紹介され、RFID Reading Tubをご紹介いただきました。



【参考】RFIDとは …「Radio Frequency Identification」の略

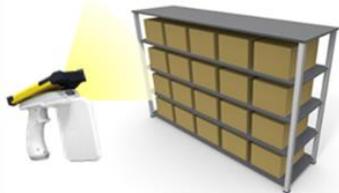
電波を用いてRFタグのデータを非接触で読み書きするシステム
電波が届く範囲であれば、タグが遠くにあって読み取りが可能



あらゆるモノにRFタグがつけられることで、
モノまたは人の様々な状況変化を的確に捉えることが可能となります。

非接触通信

遠くのタグも読み取れるので高いところのタグ等も読み取り可能！
作業時間の短縮はもちろん、
作業者の安全確保にも繋がります。



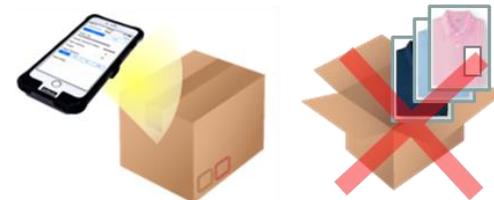
一括読み取り

複数の商品が入っていても一括での読み取りが可能！
バーコードのようにひとつひとつ読み取る必要がありません。



透過性

箱などを開けなくても読み取り可能！
作業効率が大幅にアップします。

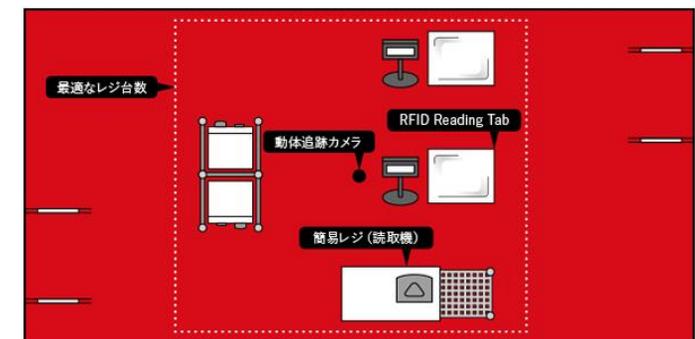
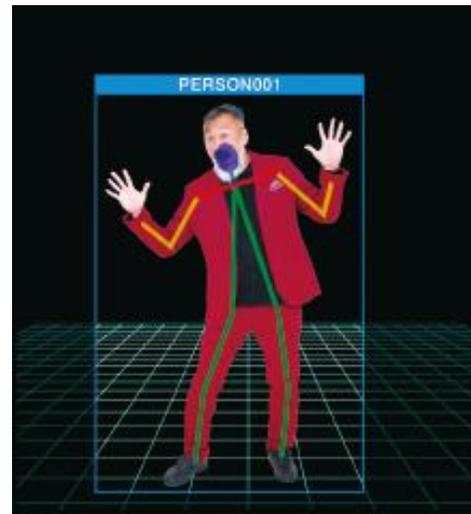
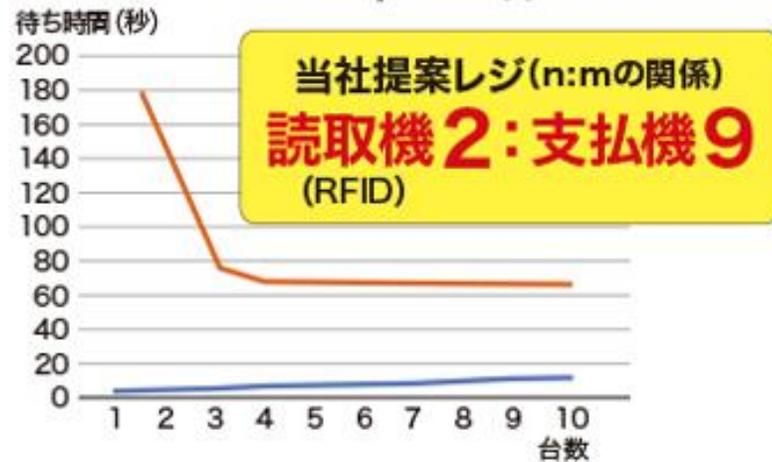


【新製品】セルフレジ用「人追跡モジュール」リリース

これまでもレジの混雑解消を目的とした人追跡レジAsRegi+ を実験的展開を実施してまいりましたが、この中での中核エンジンである「人追跡モジュール」をリリースすることにより、多数のレジメーカー様のレジに組み込むことが可能となり、例えばスーパーマーケットでのセミセルフレジや、アパレルでのRFIDレジなどで利用が可能となるものです。

なお、この度、人追跡のレジとして特許査定をいただいたこともあり、積極的な販売へと移行することにした次第です。

■セルフレジで900人/hの場合



【新製品】大型ディスプレイ「シガマド」運用開始のお知らせ

物流倉庫であるAsReader BASEに、大型ディスプレイを設置し、運用を開始いたしました。

この建物は、国道1号線と県道142号線との交差点に位置しており、かなりの視認性をもっております。当社が入る4階部分に設置されてある大きな窓は高度13.5mの位置に、『高さ約4m、長辺幅約18m、短辺幅約5m』のサイズの窓が設置されており、その大きな窓を利用してディスプレイを設置した次第です。

現在、設置は完了し3D映像などを含めてテスト運用をしておりますが、4月20日の開所式から本格的な運用開始といたします。

ここでは、当社の商品やサービスなどのアピールもありますが、周りの地域住民とのコミュニティ的なものとも考えており、滋賀県のシンボリックな役割もできればと考えております。

なお、広告主も同時に募集をしておりますので、映像作成なども含めてお気軽にご相談ください。



【子会社設立】自動レジの実証実験を目的とする子会社を設立

株式会社自動レジ研究所

近年、人手不足解消やレジの待ち時間短縮・混雑緩和を目的として、セミセルフレジやセルフレジが開発され、小売業界を中心に導入が進められてきました。

アスタリスクは、この分野においてPOSレジ自動化を推し進める「レジ自動化推進委員会」を設立、人追跡レジAsRegi+の開発をはじめ、様々なソリューションを研究してきました。

今回、新たに子会社を設立することで、自動レジの実証実験にさらなる注力を行い、将来的な展開に向けた研究開発を加速させる専門組織を立ち上げることとしました。

自動レジの実証実験には、特許取得済の画像認識技術やセンサー技術、顔認証技術などを中心とした最新の技術が活用されます。これにより、顧客のスムーズな支払いプロセスと、店舗業務の効率化を実現することを目指します。

【実証実験店舗】 自動レジを用いた画期的な店舗として 本場さぬきうどん店「こがね製麺」を発表



クルーは、香川県を中心に「こがね製麺所」などの本格さぬきうどんを展開しており、香川県下で最大の店舗数を誇っております。これまでの本場の「製麺技術」に加え、アスタリスクが独自に研究してきた「人追跡（画像認識）レジ技術（特許第7262715号）」、「顔認証での特定システムの技術（特許第7320887号）」などに加え新たな技術として「重量センサー技術」「音声制御技術」などの特許申請中の技術も組み合わせ、今までにないセルフタイプのうどん店を展開することになりました。一号店として滋賀県栗東市（アスタリスク物流倉庫が4階に入っている滋賀中央ビル1階）にて自動研が出店をし日常業務の中で技術確立をさせた後、随時全国へと展開をしてまいります。

【参考】 セミセルフレジ



【参考】セミセルフレジ

人追跡(画像認識)レジ技術

特許第7262715号



重量センサー



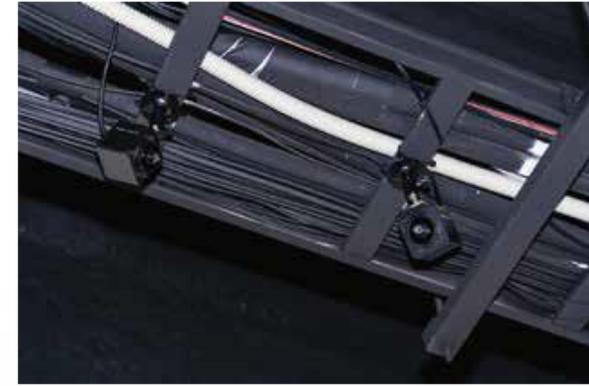
厨房端末



確定端末



クーポン・スタンプ端末



人追跡



オーダーディスプレイ



セルフレジ



自動音声

【記念日認定】 毎年8月5日は『AsReaderの日』記念日として認定を受けました！



アスタリスクが提供する「AsReader」とは、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で利用できる、バーコードリーダーやRFIDリーダーライター、さらに画像認識やAIなどを活用して『モノ』を認識する技術の総称です。

AsReaderブランドとしてこれらの製品やアプリを開発し、スマホとAsReaderを組み合わせることにより、製造業や物流業、医療関係機関など多種多様な企業で利用され、業務のスマート化を進めて今年で10周年を迎えます。

AsReaderによる「モノ認識」と「モバイル」を使った業務改革を認知してもらうことを目的に、日付は「AsReader」の最初の商標登録申請が2013年8月5日であったことから決定しました。

【導入事例】

第17期も多くの企業様にAsReader製品を導入いただきました。
これまでの導入事例も含めて、次のURLにて掲載しております。

<https://asreader.jp/casestudy/>

【SBS即配サポート株式会社様】



【コンフェックス株式会社様】



【日本サニパック株式会社様】



【国際空港上屋株式会社様】



【丸一鋼管株式会社様】



【参考】画像認識関連

①OCRアプリを活用した賞味期限管理（事例：コンフェックス株式会社 様）

国内外の1,000を超えるお菓子メーカーの商品を取り扱い、スーパーやドラッグストア、コンビニなどの小売店様に日々お菓子を届けているコンフェックス様。

その事業の基盤となっており、全国に42ヶ所ある食品物流センターにおける業務品質の高度化を検討している中で、小売店様へ出荷する際の賞味期限管理のシステム化を希望され、この度、バーコードリーダー(AsReader ASR-010D)とOCRアプリ(CAMERA-Type OCR)を活用しておこなう、賞味期限管理システムをご導入いただきました。

ハードとソフトの両面からサポートできるアスタリスクならではのソリューションにより、食品物流センターの業務効率の改善に寄与しています。

【導入事例】 [コンフェックス株式会社詳細ページ https://asreader.jp/casestudies/casestudy_confex/](https://asreader.jp/casestudies/casestudy_confex/)



【参考】画像認識関連

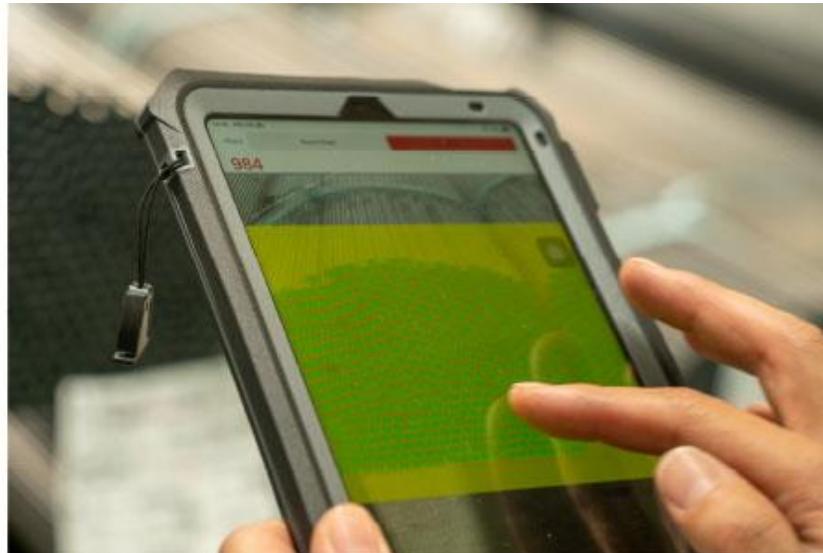
②アスタリスクのアプリ「CountPipe」を活用した鋼管カウント（事例：丸一鋼管株式会社 様）

グループ全体で、国内生産拠点15 箇所、販売拠点28 箇所、さらに海外7カ国に20拠点を展開する「パイプのリーディングカンパニー」丸一鋼管株式会社様。

多様化する顧客ニーズに対応し、絶えず品質向上に務める生産現場で、これまで人力に頼っていた鋼管の個数確認に画像認識/AI技術を用いて開発した弊社アプリ「CountPipe」を導入。

「CountPipe」を使って一瞬で鋼管の個数を把握することができるようになり、丸一鋼管株式会社様の業務効率向上に役立っております。

【導入事例】丸一鋼管株式会社詳細ページ https://asreader.jp/casestudies/casestudy_maruichikokan/



【その他】アスタリスク従業員持株会 加入率8割を達成

社員の経営参画意識を高め、中長期的な企業成長に向けて全員経営型の組織を強化するために設立したアスタリスク従業員持株会の加入率が81.42%となりました。

東京証券取引所上場内国会社の平均加入率 37.65%*を踏まえると、非常に高い加入率と考えております。

(*出典：東京証券取引所 2021年度従業員持株会状況調査結果の概要について)

当社は、自社株式の取得及び保有を通じて社員自身が株主となることで全従業員の経営参画意識を高められると考えております。多くの従業員が株主の一員となることで、従業員以外の株主の皆様と同様の視点を持ち、更なる企業価値の向上を図り、中長期において株主の皆様と会社及び従業員が成功を分かち合うことを目的としており、また、安定的な当社株式購入の需要確保及び出来高増加に寄与し、株式市場における流動性向上につなげることも企図しております。



2. 企業集団が対処すべき課題



- ・ <https://www.asx.co.jp/ir/> に掲載しております
第17回定時株主総会招集ご通知 16頁から19頁に記載のとおりであります。
- ・ 様々な課題や取り組むべき事項がございますが、対策・施策を講じ、
更なる事業の拡大や新しい付加価値の創出を図ってまいります。

第17回定時株主総会

2023年11月27日

「モノ認識」と「モバイル」を中心にIoTで世界を変える

IoT × **AsReader**  Digital Transformation

株式会社アスタリスク

決議事項



【第1号議案】取締役（監査等委員であるものを除く。）4名選任の件

取締役（監査等委員であるものを除く。）全員（4名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役（監査等委員であるものを除く。）4名の再任をお願いするものであります。

取締役（監査等委員であるものを除く。）候補者は、次のとおりであります。

なお、本議案に関しましては、当社の監査等委員会は、全ての取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者について適任であると判断しております。

候補者番号	氏名	現在の当社における地位及び担当	取締役会出席率	候補者の属性
1	すず きの のり ゆき 鈴木 規之	代表取締役執行役員社長	100% (21回中21回)	<input type="checkbox"/> 再任
2	か とう えい た ろ う 加藤 栄多郎	取締役執行役員事業部長	100% (21回中21回)	<input type="checkbox"/> 再任
3	やま もと かず や 山本 和矢	取締役執行役員管理統括室長	100% (21回中21回)	<input type="checkbox"/> 再任
4	つじ もと きよ し 辻本 希世士	社外取締役	100% (21回中21回)	<input type="checkbox"/> 再任 <input checked="" type="checkbox"/> 社外 <input type="checkbox"/> 独立役員

【第2号議案】会計監査人選任の件

当社の会計監査人であるPwC京都監査法人は、本總會終結の時をもって任期満了により退任されます。つきましては同監査法人を再任しないこととし、新たに海南監査法人を会計監査人に選任することにつきご承認をお願いするものであります。なお、本議案は監査等委員会の決定に基づいております。また、監査等委員会が海南監査法人を会計監査人の候補者とした理由は、独立性及び専門性、監査の実施状況、品質管理体制等に関する情報を収集し検討した結果、当社の会計監査が適切かつ妥当に行われることを確保する体制を十分に備えていると判断したためであります。

会計監査人候補者は、次のとおりであります。

(2023年8月31日現在)

名 称	海南監査法人		
事 務 所	主たる事務所	東京都新宿区西新宿6丁目14番1号	
	その他の事務所	大阪	
沿 革	1985年5月	海南監査法人設立	
概 要	資本金	45百万円	
	構成人員	代表社員	15名
		公認会計士	113名
		試験合格者等	5名
		その他	2名
		専門職・事務職	2名
		合計	137名
	関与会社数	金融商品取引法対象会社	24社
		会社法対象会社	16社
		学校法人監査	5法人
		労働組合監査	9組合
		投資事業有限責任組合監査	1組合
		任意監査	23社

第17回定時株主総会

2023年11月27日

「モノ認識」と「モバイル」を中心にIoTで世界を変える

IoT × **AsReader**  Digital Transformation

株式会社アスタリスク